

## 平成 28 年度 第 2 回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）

19：00～21：30

会場：市役所 4 階 第 2 委員会室

出席者：井上委員、加藤委員、齋藤委員、斉藤委員、杉森委員、高田委員

鯖江市：三上地方創生統括監、斉藤室長、齋藤参事、今宮主事

### 1 開会

### 2 外部評価実施

#### ① I Tのまち鯖江推進事業（所管：情報統計課）

<概要説明>（笠嶋課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：宿泊費が安いが。

所管課：すべてのパネラーの方が泊まったわけではないため、宿泊費が抑えられた。

委員：「I Tのまち鯖江」というのが市民に浸透していないか。I T推進計画を進めていくうえで戦略は。

所管課：I T企業が集積していることや、I Tが生活の中で浸透していると感じてもらえれば。

委員：参加者の実績が落ち込んでいるが検証しているのか。平成 28 年実績は。

所管課：26 年の実績は、市民活動フォーラムを同日開催し参加者が増えた。27 年はオープンガバメントのみ。28 年も 100 名程度である。今年は電腦メガネコンテストを募集し小学生から 500 を超える応募があった。会場内で掲示したこともあり親子連れの参加者も新たに獲得した。

委員：提案型でやっていることについての評価か。

所管課：27 はたまたま提案型。26 は直営でやっている。

委員：内容が専門的な方を対象にしているように思える。市民に浸透するのか。

所管課：参加者の内訳を見ると、委員の言う通りである。

委員：全国の専門的な方を呼ぶために行うのか、市民に浸透させるためのツールなのか。

所管課：市民に I Tを浸透させるために他に講座等を行っている。フォーラムもその方策のひとつである。

委員：他の講座とは。

所管課：オープンデータ、子供向けのプログラミング教室、ITに親しむ講座に取り組んでいる。

委員：講座はどちらで行っているのか。

所管課：公民館、高年大学で。タブレットの使い方、SNSの使い方など。

委員：フォーラムを行う目的とは、市内IT企業の成長が期待されているということと市民にITが浸透することの2つか。

所管課：IT企業が誘致され4番目の地場産業として認知されれば、また、インターネットを使って開かれた行政ということも柱としている。

委員：目的がどこにあるのか。対象を絞れてないのか。

所管課：眼鏡の会社が多いように、IT企業がたくさんあれば、ITのまちとして感じてもらえる。IT推進フォーラムは最新の情報を市民に感じてもらう場としての目的も。毎年テーマを変えて実践している。

委員：鯖江が「ITのまち」として言ってよいのか。なにをもって言うのか。

事務局：福井高専をはじめ、地元の方で有名なIT関係者が多く、さらにIT関係者が増えていくことを眺望して名乗っているところはある。フォーラムを行うことで、様々な企業が鯖江に注目をいただいている。フォーラムは外向き、内向きとしてIT講座などを行っている。

委員：外向きに行くことで何を求めているか。目的があるのか。

所管課：目的というより、企業から連携の話がくる。こういう取り組みで企業に鯖江を選んでもらっている。

委員：フォーラムは外向きというイメージ。オープンガバメントを進めるのであれば無料Wi-Fiスポットをもっと周知、充実しては。結局「ITのまち」は言ったもの勝ちなのかな。

所管課：駅から西や公園までスポットがある。公民館も。今後改めて周知する必要がある。

事務局：子育てアプリもIT企業の支援もあって開発した。そういったものも周知していけば。

委員長：ITのまち鯖江推進事業の目的が、市民か企業か。どちらかと企業という受け止め方になるか。企業だということであれば、もっと直接的な商談の場を設けることでフォーラムをしなくても良いのでは。

所管課：フォーラムは企業向けではなく、市民への浸透を目的としている。企業への効果もあればよいが。

委員：このフォーラムでは市民へ浸透しないのでは。

事務局：各年テーマを持って行っている。今年は子どもの参加型であった。フォーラムを通してITの良さを知ってもらえれば。参加人数が少ないというのは検討する余地があり、内部評価としても事務改善としての思いがある。

- 委員：やはり参加型にすれば市民も親しみをもてるようになる。
- 委員：チラシを見る限りは、自分の参加するものではないという印象。市民向けなら、そういう触れ込みをすることを広報してほしい。
- 委員：フォーラムの中で、将来的にITが生活や仕事にどうかかわっていくのかといったわかりやすい話がされるとよいのか。
- 委員：目的をはっきりさせないと中途半端か。

#### <方向性判断>

- 委員長：担当課の判断は事務改善だが。いかがか。
- 委員：IT推進計画を策定し、わかりやすい目的、目標を定めて事業を実施していくということか。
- 所管課：目的の位置づけを明確にしたい。
- 委員長：委員会の意見と合致する。個人の意見だが、成果指標が未達成であることについて言及されていない。方向性は事務改善だが、計画策定とのこと。策定後は維持に戻ってしまう。数値にも配慮いただきたい。意見を集約すると「目的を明確にもってもらいたい。」「一般の方への広がりを検討する。」「これからの生活がどう変化するか、具体的なイメージをもって、市民全体にITのまち鯖江のイメージが浸透するよう取り組んでほしい。」「（目的がそうであるならばだが。）今年子ども向けの取組を行ったという工夫は委員も評価していた。今後も継続してほしい。

## ② 街なか賑わいづくり振興事業（所管：商工政策課）

<概要説明>（西村課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

- 委員長：誠市も補助金に変えるのか。（事務改善 交付金から補助金に変える説明を受け）
- 所管課：28年から補助金に変えている。
- 委員長：29年方向性で年間目標を求めるとは。
- 所管課：各事業で目標を設定する。各店舗の売り上げなど。誠市では来年度季節に応じたテーマを決めて行うこととしている。
- 委員：商店街の方、界限の方は誠市を求めているか。
- 所管課：実行委員会には商店街、地元の方が入っている。誠市が始まったのも地元の声から。
- 委員：商店街（駅前）、西山公園に人が流れているか。
- 所管課：つつじまつり等のイベント、商店街のセールと連携している。空き時間の差はあるが一定の効果が認められる。
- 委員：せっかく多く人が集まるイベントなので。西山公園との動線は。

所管課：観光協会にポスター掲示。西山公園でのイベントの際は呼びかけている。

委員長：商店街との連携は。主に店舗空き時間。

所管課：骨董市が先にあり、商店街に合せるというのは難がある。商店街の店舗が、誠市に出店している。

委員：誠市は続いているが、商店街に人が流れなければ、中心市街地の活性化とは言えないのでは。

所管課：誠市だけというわけではなく、様々な取組で活性化を狙っている。今年は駅前ピクニック（駅前の商店街）からも誠市に人が流れ、相乗効果がある。

委員：はっきりとした目的（目標）をもってもらえれば。

委員：誠市の来場者は結構年配の方が多いか。若い方の参加を促すことも。

所管課：年配の方ばかりではないが、仁愛の児童福祉学科の学生にブースを出してもらったり、ママフェスも好評ということで、親子連れも。話し合いや工夫で老若男女集まるイベントにしようと心掛けている。

委員：鯖江高校も近いので、高校生が来られないか。

所管課：日曜のため、部活動帰りの高校生は見受けられる。

委員長：実験的に平日に開催することで学校帰りの学生に来てもらうことも。

委員：チラシもより若い方の心をつかむレイアウトにしては。

所管課：実行委員会に投げかけます。

委員：8月は夜にも開催しているが。年齢層は。

所管課：夜は地元の方も多く、子どもも多かった。

委員：空き店舗対策事業、創業人材の育成。具体的にどういうことを。

所管課：空き店舗対策は家賃補助を。人材育成はスキルアップ、研修。

#### <方向性判断>

委員長：方向性は「事務改善」で良いか。委員の意見をまとめると、「事業の目標と誠市開催の主旨」「周辺施設への回遊性の向上」「若い方、客層の広がり」の工夫を。

### 3 閉会

#### <総括>

委員長：前回と今日の評価を踏まえて、外部評価の結果を整合するが、事務局からなにかあるか。

事務局：「ふるさと鯖江の日記念事業」について。ふるさと鯖江を記念するイベントとして3部構成で取り組んでいることは他の市町の事例を見てもない。委員の意見から、若い方の参加を促すなど意見は出たが、「事務改善」として事業を組み立て直すということだけでなく、構成はこのまま続けさせていただくということで「維持」という評価

でご検討いただけないか、それに委員の意見を付帯してはどうか。

委員：内部評価と外部評価が違うというと、外部評価の結果はどう影響するのか。

事務局：今年の実績にもあるとおり、外部評価の意見は次年度に事業に反映する。また公表を行う。一定の拘束力があるか。ただ、どのように反映されたかなどは（各事務事業評価の取組にはあられるが）各委員にはお知らせしていない。

委員長：市長への報告後、各課が対応を検討、公表、の流れか。予算へも反映か。

事務局：市の政策会議にて評価の報告、決定、予算編成への考慮も。

委員長：内部評価の「維持」は、担当課が次年度の修正点を見出し改善行うこととしており、委員会の意見から、内部評価と同様としても影響はないか。外部評価が維持としても、白紙委任としてではなく、付帯意見として述べていく。

委員：委員会の意見が薄められなければよいか。

委員：3部構成を残すということでの「維持」か。

委員：3部構成が悪いという意見ではなかったかと思う。

委員：もっと参加者の広がりを、参加者が同じでは、改善されていないように思われる。

委員長：維持ということでも委員会の意見を十分踏まえてもらいたい。事務改善としてインパクトを付与するか。

委員：次代に引き継いでいくという目的が大事。若い人がふるさとを離れていく。そこに目を向けては。

委員長：そこにもっと意識を注いでもらうようなかたちで、今の3部構成を活用していただきたい。基本的な方向性としては維持でよろしいか。

委員：同意。

#### <市長への報告について>

井上委員長、齋藤副委員長兩名にて市長へ報告書提出

日時：平成 29 年 1 月 6 日（金）15：00～

#### <感想>

委員：いろんなことを勉強できた。市への理解を深めた。要望だが、外部評価により改善された結果を報告してもらいたい。

委員：一つを取り上げて一つを評価するのは難しいか。柔軟に考えて他の事業との発展も考えられるが、外部評価では一つの事業しか評価しない。枠組みを超えたような評価ができないか。

委員：様々な市の取組が分かり、楽しかったという感想。市外の方から「鯖江っていいよね」って言われる。鯖江市民は感じられにくいのかもかもしれないが市ががんばっているということ、それを誇りにしてもらいたい。事業の抽出に少々難しさを感じた。

1章あたり1事業というのは少ないのでは。評価が事業ということで、委員の意見でも次はもっと良くしてほしいということで、評価が事務改善になりがちだった。市民にもっと鯖江を好きになってもらえるような事業の展開を希望する。

委員：大きな目的の中で各事業が行われ整理されていることだと思うが、その事業がその目的のために行われているか、大きな目的の中では軽薄になりがち。そのため、目的に重きが置かれると、各事業への意見が活発に出ているということだと思う。事業自体の目的をはっきり書いてもらおうと評価も変わってくるか。

委員：企業であれば、事業に対してもっと考えるだろう。事業を説明する所管課にはその気概が感じられなかった。この委員会は意見が活発に出てよかった。他の会議ではあまり発言されない方もいらっしゃる。こういった会議に参加できてよかった。

委員長：たくさんの意見があり、実りある外部評価委員会だったと思う。この4つの対象事業だけでなく、行政自らが評価調書を活用し、市民目線での評価を期待する。